

所員

専任教員

渡辺 信一郎 WATANABE Shinichiro

役職：所長

専門：中国楽制史、中国楽制史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHE Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬 智志 TAKWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤 桂 SAITO Kei

役職：講師

専門：音楽学・日本音楽史

客員教授

山田 智恵子 YAMADA Chieko

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

非常勤講師

藺田 郁 SONODA Iku

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

竹内 直 TAKEUCHI Nao

担当：特別研究員

専門：現代音楽論・日本近代洋楽史

出口 実紀 DEGUCHI Miki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・民俗音楽

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi

担当：司書

異動のお知らせ

2019年3月、任期満了により退職

竹内 直（非常勤講師）

2019年4月より新任

遠藤 美奈（非常勤講師）

客員研究員

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

2018年4月1日～2019年3月31日

研究課題：近代日本音楽の音源資料に関する研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

2018年4月1日～2019年3月31日

研究課題：浄瑠璃本に見る人形浄瑠璃上演史の研究

受入教員：山田智恵子

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

2018年4月1日～2019年3月31日

研究課題：能の謡と囃子の歴史

受入教員：藤田隆則

丹羽 幸江 NIWA Yukie

2018年4月1日～2019年3月31日

研究課題：祝詞の音楽的研究

受入教員：藤田隆則

前島 美保 MAESHIMA Miho

2016年4月1日～2018年11月9日

研究課題：歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究

受入教員：竹内有一

共同研究員

計 48 名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告 1」に掲載。

委託研究

委託者：大西秀紀

委託テーマ：『喜多流・声の名曲集』（昭和 50 年頃に刊行）に附属しているソノシートのデジタル化および書誌情報化

（研究のテーマ）

『喜多流・声の名曲集』は、昭和 50 年頃に月刊で頒布された、ソノシートによる謡曲集である。当時、謡曲は、一般社会人の趣味として広く嗜まれており、ビジネスマン同士の社交の手段でもあった。『喜多流・声の名曲集』は、そういった時代を象徴する貴重な資料であるが、デジタル化は未だ行われていない。昭和 50 年頃は、まだ能楽師の人口も多く、吹き込みを行っている能楽師の芸の質も大変高い。高い芸質の謡曲を後世に残し、研究資料としてアーカイブ化するためにも、デジタル化の作業が必須である。

展 観

会場：新研究棟 7 階展観ブース

(1) 「伝統芸能×マンガ」

平成 30 年 5 月 9 日（水）～平成 30 年 12 月 8 日（金）

内容：利用者の方に日本伝統音楽・芸能への理解を深めていただくため、また研究資料として、日本伝統音楽・芸能を題材にしたマンガを購入し、図書室に配架している。そのマンガを紹介するため、表紙の展示およびマンガに登場する楽器や関連資料を展示した。



ギャラリートーク

平成 30 年 6 月 26 日（月）

内容：展示したマンガの内容紹介とマンガに登場する曲の演奏。



(2) 「三味線に関するプロダクトデザインからの考察—人と道具との新たな関係の構築を目指して—」大学院美術研究科博士（後期）課程 審査作品の展示

平成 30 年 12 月 3 日（月）～平成 31 年 3 月 7 日（木）

企画・構成：村井陽平（プロダクト・デザイン領域）

出版物【書籍】

『日本伝統音楽研究第』15 号（京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター、2018 年 6 月 30 日刊行）

〈論文〉

松平頼則の《南部民謡集をめぐって》—採譜と創作のはざままで— 竹内直

The narrative worlds of contemporary naniwabushi (rokyoku) 時田アリソン

〈研究ノート〉

明治中後期における源治節の興行活動の広がりとそのあり方

—東海地方を軸に— 藺田郁 PDF

〈彙報〉

活動記録 1 プロジェクト研究・共同研究

活動記録 2 特別研究員・客員研究員

活動記録 3 専任教員

大学院 音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻

出版物【書籍】

武内恵美子編『近世日本と楽の諸相』日本伝統音楽研究センター研究報告 12
(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2019年3月31日刊行)



まえがき 武内 恵美子

〈第一部 言説と実践〉

「荻生徂徠の残響—太宰春台・堀景山・水谷博泉・乳井貢・山県大弐・帆足万里の「楽」言説を巡って—」 小島 康敬

「弘前藩における楽実践」 武内 恵美子

「毛利壺邸の『楽道筆記』と催馬楽復興」 遠藤 徹

「神山長広について」 山田 淳平

〈第二部 楽律論の展開〉

「豊田市中央図書館蔵安倍季良撰抄本『律呂』について—解題及び『山鳥秘要抄』諸伝本との比較—」 明木 茂夫

「鈴木蘭園の楽律論—『律呂辨説』を中心として—」 榎 木亨

「荻生徂徠の『楽律考』『楽制篇』並びにその楽律論の継承と影響(その一、荻生北溪)」 山寺美紀子

「朱載堉の円周率と荻生徂徠」 小林龍彦

〈第三部 文人と楽〉

「琴士の系譜—鈴木修敬・村井琴山、浦上玉堂—」 高橋 博巳

「楽人東儀文均と文人社会—江戸末期三方楽所楽人と文人社会の関わり方の一例として—」 南谷 美保

「長崎歴史文化博物館蔵『書翰集』について」 唐 権

〈第四部 東アジアの楽の諸相〉

「中国の百戯と古代日本の相撲儀礼—その芸能および左右近衛府について—」 平間 充子

「朝鮮時代後期における儒学者の「琴」認識—七弦琴〈唐琴、儒琴〉と玄琴をめぐって—」 平木 實

「開皇楽議略論—隋朝雅楽の成立とその政治過程—」 渡辺信一郎

著者一覧

共同研究会開催一覧

出版物【CD】

『王朝時代の雅楽に寄す。～古楽譜の解読と解釈 その一例～』(日本伝統音楽研究センター、2018年7月31日刊行)



日本伝統音楽研究センターでは、CD『王朝時代の雅楽に寄す。～古楽譜の解読と解釈 その一例～』を発行いたしました。

源博雅(918-980)の撰した龍笛楽譜『新撰楽譜(博雅笛譜)』の曲譜から盤渉調と黄鐘調の譜をいくつか選曲し、さらに『琵琶諸調子譜』などの平安中後期の琵琶・笙・箏の楽譜も解読し、4種の楽器によるアンサンブルとして、王朝時代雅楽を再現してみました。

収録曲目

- 1 輪臺 (序輪臺)
- 2 輪臺 垣代音取
- 3 輪臺 (早輪臺)
- 4 青海波 (初返)
- 5 青海波 垣代音取
- 6 青海波 (第二返)
- 7 剣気禪脱 破

- 8 剣気禪脱 禪脱 (三返)
- 9 竹林楽 (二返)
- 10 西王楽 序
- 11 西王楽 破 (二返)
- 12 海青楽 (二返)
- 13 散吟打球楽
- 14 赤白桃李花 序
- 15 赤白桃李花 破一帖
- 16 赤白桃李花 破二帖
- 17 赤白桃李花 破三帖
- 18 赤白桃李花 破四帖
- 19 赤白桃李花 破五帖
- 20 赤白桃李花 破六帖

演奏 でんおん管絃講 (平成 29 年度メンバー)
 伊藤慶佑 (龍笛)・管亭安 (琵琶)・陳宗彤 (笙)・田
 鍬智志 (箏/筆箏)

収録 平成 30 年 (2018) 5 月 3・4・26 日, 7
 月 2 日 京都市立芸術大学講堂

研究ノート Andrea GIOLAI "In and Out of
 Trouble: Gagaku and the Issue of Authenticity"
 (ジョライ アンドレア「困難の内と外で一雅楽とその
 真実性を巡って」、英文)

公開講座

第 52 回公開講座 学校教育に能を！ 能〈羽衣〉

日時：平成 30 年 12 月 25 日 (火) 午後 3 時～6
 時 (2 時開場) 2 時半より、開演前の事前プレ
 ゼンテーションを行います。

会場：京都観世会館

能の謡 (うたい) や囃子を、小学校や中学校、高等学
 校などの教育現場で取り扱えるように、能《羽衣》を
 素材に、その面白さを伝えるための新しいプログラム
 を提案する内容です。

プログラム

第 1 部 観世流 能〈羽衣〉

シテ (天女)：河村晴久 ワキ (漁夫)：有松遼一 ワ
 キツレ (漁夫)：岡充、小林努

笛：森田保美 小鼓：大倉源次郎 大鼓：河村大 太
 鼓：前川光範

地謡：観世鐵之丞 (地頭) ほか

観世流能《羽衣》

美しい衣を見つけ家宝にしようと持ち帰る漁夫・白
 龍。そこに天女が現れ、衣を返して欲しいと言います。
 白龍は、悲しむ天女に同情し、衣を返します。衣を身
 につけた天女は、月の宮の有様を表す舞を見せ、春の
 三保の松原を賛美し、天に消えます。《羽衣》は、能
 の代表的な作品の 1 つで、しばしば上演されますが、
 今回は、小書なし、そして、登場音楽、クリ・サシ・
 クセなど一切省略なしの完全版で上演します。

第 2 部 能〈羽衣〉で能舞台と教育現場をつなぐ (講
 演とワークショップ)



第 53 回公開講座 「京都対談」 〈国際日本文化 研究センター・京都市立芸術大学日本伝統音楽 研究センター共同企画〉

日時：平成 31 年 2 月 15 日 (金) 午後 1 時～2 時
 30 分 (12 時 30 分開場)

会場：京都市立芸術大学 大学会館交流室

『京都ざらい』の著者で国際日本文化研究センターの
 井上章一教授と、京都生まれ、京都市育ちで、今年度よ
 り就任した本学日本伝統音楽研究センター所長の渡
 辺信一郎が、「京都」をテーマに語り尽くします。



第54回公開講座 「平安から唐へ 糸でたどるいにしへの韻 -琵琶・箏の古譜による琴曲の再現-

日時：平成31年3月23日（土）13時30分～
16時30分（13時00分開場）

会場：京都市男女共同参画センターウィングス京都イ
ベントホール

日本の雅楽は遣唐使が招来した唐の音楽です。近年その古譜から当時の雅楽が研究されていますが、中には原曲が七弦琴のための曲であったものがあります。本講座では、現在復元不可能とされる唐の琴曲を、雅楽の古譜の解釈から再現します。



でんおん連続講座

でんおん連続講座 A 「常磐津節実践入門(その7)」

開催日：4月27日・5月11日・5月25日・6月
1日・6月14日・6月29日・7月13日

時間：午前10時40分～12時10分

講師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1（新研究棟7階）

京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。全体で講義4、実技6の割合を目処とし、題材は受講者のリクエストを踏まえて調整します。試演会、鑑賞会、名曲史跡探訪等も行います。初心者大歓迎です。



でんおん連続講座 B 「京都の琴 その5」

6月9日（土）・6月23日（土）・7月7日（土）

講師：

武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

開催日：6月9日（土）・6月23日（土）・7月7
日（土）

時間：午後1時00分～午後4時10分

講師：武内 恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1（新研究棟7階）

平成29年度後期連続講座I「京都の琴(その4)」に引き続き、琴（キン／七弦琴／古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。

講義では、(1) 琴の様々な文化的側面を学びつつ、(2) 各回1曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、(3) 江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。



でんおん連続講座C 「常磐津節実践入門(その8)」

開催日：11月16日・11月30日・12月14日・
平成31年1月11日・1月25日・2月
8日・2月15日・3月1日【いずれも金曜
日・全8回】

時間：各回13時00分～14時30分

講師：常磐津 若音太夫(竹内 有一)(日本伝統音楽研
究センター教授)

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1(新研究棟7階)

京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞
伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴
史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃
(語り)と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。



でんおん連続講座D 「三味線古譜で辿る 義太夫節の音楽 — 『本朝廿四孝』 四段目切「十種香の段」を例として—」

開催日：12月8日(土)・12月9日(日)【全2回】

時間：各回とも10時30分～16時00分(昼休憩
を含む)

講師：山田 智恵子(日本伝統音楽研究センター客員教
授)

神津 武男(日本伝統音楽研究センター客員研究員)

太田 暁子(東京音楽大学他非常勤講師、義太夫三味
線演奏家)

会場：京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室

義太夫節は、文楽人形浄瑠璃の音楽です。語り手であ
る太夫と三味線により、「浄瑠璃」の文章を語ってい
く三味線音楽でもあります。義太夫節には、三味線の
楽譜があります。『本朝廿四孝』 四段目切「十種香の
段」を例として、江戸時代後期の三味線譜や明治期の

三味線譜を比較しながら、義太夫節の音楽の変遷を
辿ってみたいと思います。(ポニー伝統文化振興財団
助成事業)



でんおん連続講座E 「京都の琴(その6)」

開催日：平成31年1月12日(土)・1月19日
(土)・2月10日(日)【全3回】

時間：各回とも13時00分～16時10分

講師：武内 恵美子(日本伝統音楽研究センター准教
授)

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1

平成30年度前期連続講座B「京都の琴(その5)」に
引き続き、琴(キン/七弦琴/古琴)の持つ特徴的で
魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習
を行います。講義では、(1) 琴の様々な文化的側面を
学びつつ、(2) 各回1曲、琴の代表的な曲を取り上
げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞し
ます。また、(3) 江戸時代に京都で活躍した琴士を、
各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の
世界を紐解いていきます。体験では、受講者の進捗に
合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫
です。多少経験がある方にも御参加いただけます。



でんおん連続講座F 「カラダで検証する雅楽研究 (その2)」

開催日：平成31年3月29日(金)・3月30日
(土)【全2回】

講師：田鍬智志(日本伝統音楽研究センター准教授)
ほか雅楽研究会メンバー

田鍬智志主宰の雅楽研究会メンバーによるリレー講座。

【レクチャー】

3月29日(金)

新研究棟7階

10:30～13:40 掌中要録・続教訓抄から探る鎌倉期舞楽～《甘州》五帖&入綾～
(田鍬智志)

13:50～14:50 雅楽から能へ その2(中尾薫)

15:00～16:00 雅楽器の独習 その2～理論と実践(上野正章)

【レクチャー&コンサート】

3月30日(土)

AM 新研究棟7階

PM 大学会館ホール

10:00～11:00 梁塵秘抄・催馬楽略譜などから探る平安末・鎌倉期の唐楽・催馬楽その1～和琴の奏法(田鍬智志・増田真結)

11:10～12:10 《甘州》と《早甘州》の謎 その2～中世楽書の検討(平野みゆき)

13:30～14:30 コンサート

1) 楽拍子と只拍子の《甘州》～箏(類箏治要)・琵琶(三五要録)・龍笛(管眼集)・笙(古譜律卷)・鞆鼓・太鼓(教訓抄)による～演奏：でんおん管絃講

2) 舞楽《甘州》五帖&入綾～舞(掌中要録)と上記楽器による～演奏：でんおん管絃講

3) 双調《鳥破》《鳥急》平調《萬歳楽》《甘州》～和琴(梁塵秘抄等に基づく推定創作)・箏(仁智要録)による～演奏：中川佳代子・江野俊江



活動3 鎌倉期舞譜・楽譜による舞楽《甘州》

伝音セミナー

第1回伝音セミナー「国際文化振興会レコード(KBS)に収められた謡曲と声明」

開催日：平成30年5月10日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：藤田隆則

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1

伝音セミナーは2006年に始まりました。今回は初心にかえり、昭和18～19年に国際文化振興会によって制作された「日本音楽集」の中から、声明および能・狂言の録音をききたいと思います。

喜多六平太(初世)、宝生新ら名人の謡と、現代の録音との比較も試みます。どのような音が鳴り響くのか、ご期待ください!



第2回伝音セミナー「説教節を聴く」

開催日：平成30年6月7日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：藺田 郁(日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
合同研究室1

説教節は長い歴史のなかで盛衰を繰り返しながら、現代に根強く残っている語り芸です。このセミナーではその移り変わりを辿りつつ、特に明治期に親しまれた説教節を取り上げます。日本各地に残された近現代の音源を聴き比べ、当時の民衆を惹き付けた説教節の魅力について考えてみます。



第3回伝音セミナー 「雅楽の今昔（その3）— こんにちの古譜解読と創作—」

開催日：平成30年7月5日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：ジョライ アンドレア（国際日本文化研究センター 日本学術振興会研究員・伝音センター共同研究員）田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター 准教授）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

日本の雅楽は長い伝承の間、盛衰を経て今日に至っています。古楽譜解読の結果立ち現れる音楽は、解読者によりかなり異なります。そのような古楽譜解読の問題を洗い出し、またこんにちの創作の動向も探ってみます。でんおん管絃講による平安中期楽譜再現演奏の最新録音もお聴きいただけます。



第4回伝音セミナー 「京都のうた（その4）」

開催日：平成30年9月6日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

「京都のうた」の4回目は、「第三高等学校逍遙歌」「京都府立第三中学校（現・府立山城高）校歌」「同志社大学校歌」「立命館大学校歌」など京都の学校関係のレコードをはじめ、河原町三条角にあった日本録音文化協会（NRBK）制作の「火の用心」「上鴨子供の歌 春はさんやれ」「大枝音頭」、大正15年発売の宇治検番芸妓連中による「茶摘踊」などをお聴き頂きます。



第5回伝音セミナー 「無声映画からトーキー映画初期～伝統音楽との関わり」

開催日：平成30年11月1日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：竹内 直（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

白井 史人（日本学術振興会特別研究員）

長門 洋平（京都精華大学他非常勤講師）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

日本の映画と伝統音楽は無声映画の時代から深く関わっています。実際、無声映画の時代には、伴奏音楽の中に邦楽器が頻繁に使われていました。きわめて新しいメディアであった映画のなかに、伝統的な楽器や語法が入り込み、映像と組み合わせられることで何が生じたのでしょうか。本セミナーは、無声映画の伴奏音楽の調査・復元に取り組まれている白井史人氏と映画における音響について多数の論考を発表されている

長門洋平氏をゲストに招き、無声映画からトーキー映画初期の時代に伝統音楽がどのように関わったのかについて、事例をもとに紐解いていきます。



第6回伝音セミナー 「新内節に触れる — 前弾きの諸相と《蘭蝶》」

開催日：平成30年12月20日 木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師・演奏：細野 桜子（本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻）

ゲスト演奏：新内 志賀（研進派家元）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

新内節は江戸時代に生まれた、豊後系浄瑠璃の一つです。その特徴である「前弾き」の魅力を解き明かしながら、代表曲《蘭蝶》の実演を行います。（修士審査プレゼンテーション）



第7回伝音セミナー 「京の都に捧げる音 — 祇園囃子の調査とそれにもとづいた創作」

開催日：平成30年12月23日 日曜日・祝日

時間：14時40分～16時10分

講師：廖 婉婷 (LIAO Wan-Ting) (本学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻)

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

「伝統を受け継ぐと同時に、時代とともに進化させていくべき」という考えをもって、祇園囃子の音の分析を行ない、「平成女鉦清音会」の実際の稽古にも2年間参加しました。京の祇園囃子の音楽的特徴を明らかにするとともに、それを応用した新たな作品も披露したいと思います。（修士審査プレゼンテーション）



第8回伝音セミナー 「人情と刃傷 — 音で知る「股旅もの」」

開催日：平成31年1月10日 木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：齋藤 桂（日本伝統音楽研究センター講師）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

1920年代後半、「股旅もの」というジャンルが現れます。仁義に篤い、博徒のようなならず者を主人公に、その流浪や人情を描いたもので、演劇に始まり、小説、映画、講談、浪曲、流行歌と様々な形態で作られ、人気を博しました。現代もなお多くの作品が登場しています。本セミナーは、この「股旅もの」にまつわる音楽を聴きながら、このようなアウトローの物語・音楽に人々が共感する背景を探っていきます。



第9回伝音セミナー 「国際文化振興会レコードの「俚謡」を聴く」

開催日：平成31年2月7日木曜日

時間：14時40分～16時10分

講師：出口 実紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

大久保 真利子（九州大学総合研究博物館専門研究員）

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室1

外務省の外郭団体として発足した国際文化振興会（KBS、1934-1971）は、諸外国に日本の音楽を紹介することを目的として、5巻60枚におよぶSPレコード集『日本音楽集』を昭和19（1944）年に完成させました。その中から、今回は「俚謡」（民謡）に注目します。セミナーではさまざまな民謡をお聴きいただきながら、当時の民謡レコードの傾向についても探っていきます。



図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその

関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供していません。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）

・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

・本学の教職員（非常勤を含む）／学生
・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

・開室日時 毎週水・木・金曜日 10時～17時
・休室日 月・火・土・日曜日、

「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

最新情報は web サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。

・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。

・複写サービスは行っていません。

○視聴

・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

・毎週水・木・金曜日 10時～17時

○その他

・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ 室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開していません。

図書室での企画

・「伝統芸能×マンガ」コーナーの設置

利用者の皆様に日本の伝統音楽・芸能について理解を深めていただくため、また現代社会における日本伝統音楽の一側面を知るための研究資料として、それらを題材にしたマンガを購入しました。

それらのマンガを手にとってご覧いただけるように、閲覧室に「伝統芸能×マンガ」コーナーを設置しました。

